最新情報を手に入れよう！

社会安全学部 ホームページ

社会安全学部に関するさらに詳しい情報については、「社会安全学部ホームページ」をご覧ください。オープンキャンパスなどのイベント情報や最新のニュースなどが確認できます。「学生インタビュー」や「社安な毎日」などのキャンパスライフ情報、「卒業生インタビュー」や「就職実績」といった進路情報など、社会安全学部での学びをイメージできる情報が満載です。

関西大学 入学試験情報総合サイト Kan-Dai web

オープンキャンパスなどのイベント情報や入試に関する最新情報など、受験生を応援するコンテンツが満載！社会で活躍する卒業生インタビュー、学生インタビューなども随時更新しています。

関大　入試　検索

/ クリック! \

関西大学の最新情報をチェックしよう!

関西大学 入試センター LINE公式アカウント

友だち登録はこちらから!

関西大学 入試センター 公式Instagram

関西大学 入試広報グループ 公式 X

関西大学 入試センター 公式YouTube

JRでのアクセス

JR京都線「高槻」駅（大阪・京都駅から共に約15分）下車、徒歩約7分。

阪急電鉄でのアクセス

阪急京都線「高槻市」駅（大阪梅田・京都河原町駅から共に約20分）下車、徒歩約10分。

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅からJR京都線で「高槻」駅下車、徒歩約7分。

大阪国際（伊丹）空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市（かどまし）」行で「南茨木」駅下車、阪急京都線に乗り換え「高槻市」駅下車、徒歩約10分。

関西大学

社会安全学部

URL https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/　〒569-1098 大阪府高槻市白梅町7番1号

Tel.（072）684-4000（大代表）e-mail safety_science@ml.kandai.jp

関西大学 学部案内 2026

社会安全学部

FACULTY OF SOCIETAL SAFETY SCIENCES

安全マネジメント学科

夢は人を助ける消防士。

災害を想定した実習で、
公務員をめざす。

災害情報を担う
ジャーナリストが目標。

命を守るリアルな実験と精緻な
シミュレーションができる
エンジニアに。

社会安全学部でどう学ぶか。

社会・人間・自然、そのすべての学問領域から
最先端の知見を集めて「安全・安心」を探究します。
問題を多角的に捉える総合力、
実践的な解法を見出す即戦力を
身に付けることができます。

社会安全学部 3つの学びの領域

社　会
自然災害・社会災害につよい社会システムの構築
関連する学問　法学、経済学、社会学 など

人　間
自然災害・社会災害と共生する人間の理解
関連する学問　哲学、心理学、教育学、医学 など

自　然
自然災害・社会災害の発生過程の解明
関連する学問　工学、理学 など

Contents

03 学びの流れ・カリキュラム
05 科目紹介
07 研究紹介
09 課外活動
10 大学院
11 就職・進路
13 キャンパス紹介
14 教員・研究紹介

関西大学 社会安全学部をめざす皆さんへ

社会安全学の知識と高いマネジメント能力を有した「人財」を養成します。

2010年4月、関西大学 社会安全学部は、安全・安心な社会の構築を目的とした「社会安全学」に関する研究・教育を行う高等教育機関として、わが国で初めて創設されました。

「社会安全学」とは、地震や津波などの自然災害、製品事故などの「社会災害」を対象に、防災・減災対策や事故防止、危機管理のための政策立案とその実践に関する知識を、理工学・社会科学・人文科学の学問横断的に学ぶ、新しい学問体系です。

例えば、地震災害への防災・減災対策を理解するためには、工学のみならず、経済学や行政学、社会学などの複数の学問分野を学ぶ必要があります。また、企業の製品事故の予防対策を学ぶためには、経営学や法学、心理学などを学際的に学ぶ必要があります。本学部では10以上の学問分野の知見を学ぶ科目群に加え、これらを実践する演習や実習科目を多数配置しています。具体的には、架空の企業の経営者としてクライシスマネジメントを模擬体験する実践演習などがあります。さらには、国際的に活躍するための英語教育にも力を入れています。

社会安全学の知識と高いマネジメント能力を有した「人財」は、企業や国・地方自治体、国際機関など、さまざまな分野で求められています。皆さんが本学部で学び、社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる「人財」に成長されることを期待しています。

社会安全学部長
髙野 一彦 教授

学びの流れ・カリキュラム

文系・理系の枠を超えて、幅広い分野を網羅。
自分自身で学び方を選び、興味の幅を広げ、知識を深めることができます。

4年間の学び

1年次	2年次	3年次	4年次
4年間の学びの土台となる知識を、基礎科目として幅広く段階的に学ぶ。	防災・減災、事故防止、危機管理についての専門性を高め、安全に関する知識を深める。	将来の目標や興味・関心に合わせて、高度な専門知識と実践力を養う。	

基礎科目群［専門基礎教育ならびに共通教養科目・外国語科目］

専門科目群［自然災害や社会災害についての専門性を高めます］
共通専門科目
社会災害マネジメント科目・自然災害マネジメント科目

統合科目群［1年次から少人数での演習科目や多彩な実習科目を学びます］
社会安全実践演習
入門演習　基礎演習　専門演習Ⅰ・Ⅱ　卒業研究Ⅰ・Ⅱ

卒業・大学院進学

私の学び方　まちづくりに向けた専門的な学びと、教員免許の取得を両立したい

防災、防犯について知識を深めながら、教職課程も同時に履修しています。

4年次生 齋藤 圭悟さん（大阪／清教学園高校出身）

災害時の防火・耐火について学べる「防災まちづくり」、犯罪の歴史や犯罪者の心理を知る「犯罪論」、防災の重要性を伝えるための「防災教育」など、まちづくりを都市工学、法律、教育の多角的な観点から学習しています。同時に、将来の選択肢を広げるために、中学・高校の教員免許取得に向けた科目も履修しています。

齋藤さんの時間割（2年次春学期の時間割）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	基礎演習			犯罪論	プラクティカル英語Ⅰb
2	社会科教育法(一)	英語Ⅲa	災害情報論	災害復旧・復興論	日本史概説Ⅰ
3	公共政策論			安全・安心の行政法	災害心理学
4	地理学概説Ⅰ	防災まちづくり	英語Ⅳa		公民科教育法(一)
5			西洋史学		
6	教育制度論				

私の学び方　災害について総合的に学び、興味のある分野をさらに深掘りしたい

災害関連死について深く学び、その危険性を伝える活動をしています。

4年次生 植松 こころさん（愛媛／済美高校出身）

「総合防災・減災論」で関心を持った災害関連死について、実際の災害の被害について詳しく学ぶ「災害事例分析」で理解を深めました。また、「災害情報論」で情報を正しく伝える方法について学び、ゼミ活動で小・中学生に災害や減災の知識を身に付けてもらう取り組みを進めています。

植松さんの時間割（2年次秋学期の時間割）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1				交通事故と損害保険	
2	安全の思想	英語Ⅲb		環境問題事例研究	
3	リスクコミュニケーション			メンタルヘルス論	
4			英語Ⅳb		
5	総合防災・減災論				

		1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目群	必修科目	社会安全学総論Ⅰ　社会安全学総論Ⅱ　IT実習			
	選択必修科目	社会安全のための数学Ⅰ　社会安全のための数学Ⅱ　社会安全のための統計学			
	選択科目	安全と法制度　科学技術史と社会　現代の国際社会　法学概論　行政学　経済学概論　経営学概論　近代史　現代史　世界地理　哲学　論理学　倫理学　心理学　社会心理学　自然科学概論　地球科学概論			
		特殊講義（各テーマ）　寄附講座（各テーマ）			
	共通教養科目	日本国憲法　高槻市と関西大学			
		健康・スポーツ科学実習a（各種目）　健康・スポーツ科学実習b（各種目）　健康・スポーツ科学実習c（各種目）　健康・スポーツ科学論　大学生から始めるキャリア形成　キャリア形成入門演習　SDGs入門　SDGsの実践　金融の実務から見るSDGs　環境問題と環境政策のルーツ　カーボンニュートラル入門　活用法を見聞するAI・データサイエンス　活用法を体験するAI・データサイエンス　起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）　起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	現代社会を生き抜くためのキャリア形成　社会のためのデータサイエンス実践基礎　AI・データエンジニアリング実践基礎		
		〔チャレンジ科目〕各テーマ			
	外国語科目	英語Ⅰa/b　英語Ⅱa/b　プラクティカル英語Ⅰa　ドイツ語Ⅰa/b　ドイツ語Ⅱa/b　フランス語Ⅰa/b　フランス語Ⅱa/b　ロシア語Ⅰa/b　ロシア語Ⅱa/b　スペイン語Ⅰa/b　スペイン語Ⅱa/b　中国語Ⅰa/b　中国語Ⅱa/b　朝鮮語Ⅰa/b　朝鮮語Ⅱa/b	英語Ⅲa/b　英語Ⅳa/b　プラクティカル英語Ⅰb	プラクティカル英語Ⅱa/b	
		検定認定1（各検定試験）　検定認定2（各検定試験）　検定認定3（各検定試験）			
	外国人留学生科目	日本語Ⅰa/b　日本語Ⅱa/b　日本語Ⅲa/b　日本事情Ⅰ/Ⅱ	日本語Ⅳa/b　日本語Ⅴa/b　実践ビジネス日本語Ⅰ/Ⅱ	キャリアデザインⅠ（日本の社会と企業）　キャリアデザインⅡ（日本の就職と働き方）	日本語Ⅵa/b　キャリアデザインⅢ（日本の社会で働く）
		Contemporary Japan (Understanding Japan, Researching Japan, Japan in Mass Media 1/2)　Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1/2,		Business Japanese, JPN Corporate Culture)　Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	Japanese (1-a/b～7-a/b)
専門科目群	共通専門科目	災害事例分析　化学物質と環境リスク　製品安全論　安全システム論　都市構造物の歴史　防災教育　社会調査の基礎	安全の思想　安全・安心の行政法　地方自治法　社会技術論　治安政策論　コンプライアンス論　公共政策論　防災行政論　安全・安心の企業法　クライシスマネジメント論　地方財政論　リスクと災害の経済学　交通システム安全論　保険論　交通事故と損害保険　リスクマネジメント論	危機管理とリーダーシップ　リスクと災害の社会学　リスク認知論　リスクコミュニケーション　人間行動実験法　リスク評価法　気候変動と地球温暖化リスク　応用データサイエンス　情報セキュリティ論　公衆衛生学　BCP　社会調査法　災害ジャーナリズム論	
	社会災害マネジメント科目		消費者安全関連法　犯罪論　災害心理学　ヒューマンエラー　メンタルヘルス論　群集安全論	食の安全学　医療と医薬品と安全　事故調査制度論　プラントの安全　労働安全衛生論　流行病の制御学	
	自然災害マネジメント科目		防災まちづくり　地震災害論　環境問題事例研究　水災害論　地盤災害論　耐震工学	総合防災・減災論　災害復旧・復興論　火災論　環境政策論　災害情報論	
統合科目群	選択実習科目	数学実習　AI実習	社会安全体験実習　統計データ解析実習Ⅰ/Ⅱ　GIS実習　災害シミュレーション実習	災害調査実習　事故調査と事例分析実習	社会調査実習Ⅰ　社会調査実習Ⅱ　ものづくり実習　人間行動実験実習
	必修演習科目	入門演習	基礎演習		専門演習Ⅰ　専門演習Ⅱ　卒業研究Ⅰ　卒業研究Ⅱ
	選択演習科目				社会安全実践演習（各テーマ）
	自由科目群	教職概説　教育原理　日本史概説Ⅰ/Ⅱ　図書館情報資源概論	東洋史学　西洋史学　地誌学Ⅰ/Ⅱ　地理学概説Ⅰ/Ⅱ　教育制度論　人権教育論　教育心理学　社会科教育法(一)　社会科教育法(二)　公民科教育法(一)	公民科教育法(二)　道徳教育の理論と方法　特別活動論　教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）　教育相談論　情報資源組織論　学校経営と学校図書館　学習指導と学校図書館　読書と豊かな人間性　情報メディアの活用	カリキュラム開発論　社会科教育法(三)　社会科教育法(四)　生徒・進路指導論　教育実習事前指導　特別支援教育論　総合的な学習の時間の指導法　教育実習(一)　教育実習(二)　教職実践演習（中等）
		インターンシップ（各機関）			

▶▶P05　▶▶P05　▶▶P05　▶▶P06　▶▶P06　▶▶P06　▶▶P07・P08

取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 社会安全士
- 社会調査士
- 司書教諭
- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事

※赤字は必修科目。※その他グローバル科目群も一部履修可能です。

科目紹介

講義紹介

社会安全学を支える幅広い教養と、防災・減災や事故防止に関する専門知識を学びます。

社 会　流行病の制御学

中間 千香子 准教授

感染症流行への適切な対策を講じる力を習得することをめざす

現代の医学の進歩にもかかわらず、感染症は依然として生命を脅かす存在です。この講義では、感染症に対する基本的な知識や予防策を学ぶとともに、流行状況の把握、制御のための対策、予防接種の理解を深めることで、感染症流行に対する適切な対策を講じる力を習得することをめざします。将来、医療や福祉、食品関係の部署や企業に就職するケース、感染症に関する危機管理を担うケースを想定し、感染症に関する実践的な知識や思考力などを身に付けます。

学びのKEYWORD　●感染症予防　●感染症の危機管理　●公衆衛生

受講生の声

感染症が自分にも関わりのある存在だと気付くことができました

新型コロナウイルス感染症が流行したことがきっかけで、感染症に興味をもち受講しました。新型コロナウイルス感染症の5類移行など、今までよく分かっていなかった内容を理解でき、感染症が自分にも身近な存在だと気付くことができました。

人 間　メンタルヘルス論

廣川 空美 教授

こころの健康問題について、精神疾患の知識を学び、支援方法を考える

人生のさまざまなライフステージにメンタルヘルスの課題が存在し、身体的な健康は大きな影響をもたらします。私たちは人と人との関わりの中で生きており、家族や学校の友人、職場の人間関係など、社会とのつながりも重要です。本講義では、地域生活と社会活動上の安全問題を読み解く基礎的知識を修得し、専門的観点・異分野の専門家等とのコミュニケーションを通して社会に貢献することができるようになることをめざします。

学びのKEYWORD　●ライフステージ　●メンタルヘルス　●予防と支援

受講生の声

家族や友人との関係づくり、そして日々の暮らしに役立つということを学びました

心の健康に興味があって受講しました。受講前まで、メンタルヘルスケアは専門性の高いスキルだと思っていましたが、暮らしの身近なところにも課題があり、初歩的なことなら自分でも実践できるということを学びました。

自 然　応用データサイエンス

福井 敬祐 准教授

データを活用し、社会の課題を解決するさまざまな方法を学ぶ

データサイエンスは社会に存在するさまざまな情報（データ）を活用して、あらゆる分野の課題を解決することを目的とする学問分野です。本講義ではデータサイエンスの応用に焦点を当てて、データの処理・分析・理解を効率よく行うための数学・統計学の基礎理論や実際の解析方法について学び、社会安全に関するさまざまな分野との協同が可能な人材の育成をめざします。

学びのKEYWORD　●データサイエンス　●統計学　●データ分析

受講生の声

統計解析能力を向上させ、卒業研究や将来の仕事に生かすため履修しました

実践演習を通じて、データを加工・分析・結果解釈するというデータサイエンスの一連の流れを体験しました。分析力だけでなく、結果を正しく解釈し、図表化する表現力や論理的思考力も大切だと気付きました。

実習・演習紹介

「安全学」を実社会でどのように生かすかを、学内はもちろん学外でも主体的に学びます。

社会安全体験実習

中村 隆宏教授

道路を利用するすべての人の立場から、自動車運転の安全性を体験学習する

自動車運転にともなう危険を認識するため「クレフィール湖東・交通安全研修所」で1泊2日の宿泊研修を実施。受講者は実際に車に乗って具体的な危険状況を模擬体験し、「なぜ危険なのか」「どう防止するのか」「事故が起きそうな時、どう対処するか」を検証し、レポートを作成します。実習の目的は、道路空間を利用するすべての人が「事故防止のために何ができるか」を考えること。そのため、例えば「後部座席に乗る人がシートベルトをしない危険とは、実際にはどんなものか」など、同乗者の危険も体験学習します。

実習の流れ

- **学ぶ**　講義を通し、交通安全に関わるさまざまな課題を学びます。
- ▼
- **体感する**　特別プログラムを通し、身近な危険を疑似的に体験します。
- ▼
- **習得する**　知識と経験をもとに、安全の在り方を考え、習得します。

社会安全実践演習（クライシスマネジメント）

高野 一彦教授

ロールプレイングによって、専門知識の実践的な活用法を習得する

社会安全実践演習には、「クライシスマネジメント」「危機管理計画立案」「危機管理本部運営」「合意形成」の4つのテーマがあり、それぞれのテーマごとに演習が行われます。「クライシスマネジメント」は、3日間の集中講義で行います。第1～2日は、不祥事・製品事故など、実際の事件をケースとし、ディスカッションを通して経営判断の基礎を学びます。第3日は、企業でのクライシス発生を想定して、経営者としての一連のクライシス対応を模擬的に経験します。3日間を通して、企業や組織のリーダーの合理的な判断を探究します。

実習の流れ

- **知識の習得**　法学、経営学、心理学など、企業や組織の経営に必要な学問分野を学際的に学びます。
- ▼
- **ケースメソッド**　ケースを使ったディスカッションを通して、社会災害の予防・発生時の判断を学びます。
- ▼
- **シミュレーション**　クライシス発生時における、企業や組織のリーダーの合理的な判断を探究します。

ものづくり実習

川口 寿裕教授

工作機械の使用体験を通じて、作業者および製品の安全性について学習する

我々の身の回りの製品の多くは工作機械を使って作られています。工作機械は便利ですが、使い方を誤ると作業者あるいは作られる製品による事故につながります。本実習では各種工作機械の特徴と安全に関する注意点を知った上で「ものづくり」を体験しますが、工作機械による加工技術の習得が目的ではありません。実際のものづくりの現場や工程を体験することで、工作機械を使用する際の作業者および製品の安全性について本質的な理解を促し、事故防止について考えるヒントになることを期待しています。

実習の流れ

- **学ぶ**　講義を通じ、各種工作機械の概要と安全に使用するための注意点を学びます。
- ▼
- **つくる**　工作機械を実際に使って簡単なものづくりを体験し、講義で学んだ安全性について実感します。
- ▼
- **習得する**　知識と体験を融合させ、工作機械を使用する際の安全について理解を深めます。

共同研究プロジェクト

社会安全学部は文理融合の教育・研究を行っており、異なる分野の教員やゼミが協力し、フィールドワークや研究活動を展開しています。

【地盤工学×情報学】

日本各地で高まる土砂災害のリスク。山間部では過疎化・高齢化が進み、コストのかかる土木工事をする余裕もありません。そこで、住民自ら、簡易な観測機器を使って前兆をキャッチ、みんなで情報共有する仕組みづくりを学生が支援しています。

【耐震工学×総合防災・減災】

一見すると「防災」とは無関係に思われる「灯油の巡回販売サービス事業者」。企業の独自技術やサービスを防災に応用するアイデアを学生も案出することで、従来とは異なる手法で、家具の転倒防止や避難所の環境改善を促進していこうとしています。

研究紹介

3つの学びの分野からそれぞれ1つゼミをピックアップして、どのような研究に取り組んでいるか語ってもらいました。

社会

2025年3月卒業
太田 逸人さん
（大阪／府立阪南高校出身）

2025年3月卒業
品川 倫太郎さん
（山口／野田学園高校出身）

2025年3月卒業
澤田 善輝さん
（大阪／府立山田高校出身）

運輸分野の安全・安心をテーマに、自分たちのより良い未来を模索しています。

吉田ゼミでは、運輸分野の安全・安心につながる研究を行っています。例えば、JR西日本が特急券などの購入をよりスムーズにするために導入した「みどりの券売機プラス」というものがありますが、実際は購入時間の長さがニュースでたびたび取り上げられています。私たちは問題点を明確にするために、JR西日本の方へのヒアリングや駅において利用者へのアンケート調査などを実施しました。その結果分かったことは、実は券売機と窓口では購入にかかる時間はほとんど変わらないという事実です。それにもかかわらず、みどりの券売機プラスでの購入は時間がかかると感じる要因は、窓口とは違い、購入までに必要な時間が券売機では分かりづらいということでした。そこで、待ち時間を長く感じさせない工夫など、さまざまな解決策をJR西日本へ提案しました。

また、自身の交通事故の経験から、「二輪車での単独事故後のトラウマ」について研究しているケースもあります。交通事故を起こしたドライバーは、精神的な後遺症を抱えている人が少なくありません。そこで、125名のアンケートを実施し、事故後の心理的・社会的影響について分析しました。それらを基に、ドライバーに向けた支援策や教習所に対する予防策の提案を検討しています。

▲ みどりの券売機プラスの利用者の方へ直接アンケート調査することで、見えていなかった課題が浮き彫りとなりました。

担当教員より

輸送の安全確保は、国民が安心して暮らせる社会を実現する上で必要不可欠な課題です。そこで、本ゼミでは自動車・鉄道・航空・船舶などの運輸分野における、事故防止と安全確保について研究しています。何をテーマに選び、どのように研究を進めるかを学生が主体となって考えることで、社会でも通用する力を身に付けてもらいたいと思います。

吉田 裕 教授

人間

2025年3月卒業
浅田 愛未さん
（兵庫／県立赤穂高校出身）

2025年3月卒業
三鴨 昂将さん
（鳥取／県立米子西高校出身）

「地域コミュニティ」で安心して暮らすためには。現地調査を通して実態を把握し、課題を考えます。

菅ゼミでは、災害など地域社会の安全を脅かす問題を取り上げ、現地調査を通じてその実態と課題を明らかにしていきます。3年次は、文献調査の方法とフィールドワークの進め方を学んだ上で、夏季休業期間に新潟県中越地震の被災地で復興状況を調査しました。資料を読み込んでおくことはもちろんですが、現地の様子を実際に見て、関係者から話を伺うことで初めて見えてくることもありました。4年次に進んだ現在は、ゼミ生がめいめいに研究計画を立てて、調査を進めています。私（浅田）は、約10年前に豪雨災害で被災した兵庫県丹波市市島町が、復興の過程で「関係人口」を増やしながら、地域活性化もめざしている点に注目し、フィールドワークを続けています。関係人口とは、特定の地域に継続的に多様な形でかかわる人のことを指し、「観光以上、定住未満」と例えられることもあります。定期的にお祭りや農業体験などで市島町を訪れる関係人口を増やしてきたことが、地域内の市民活動を活性化し、収益維持につながっていたことが、活動記録の分析から把握できました。卒業論文が完成したら、市島町で出会った皆さんにも研究成果を報告し、そこに暮らす人とは異なる視点を提供できたら、また他の地域の災害復興の役に立ててもらえたらと思っています。

▲ 私（三鴨）は集落の持続可能性をテーマに、石川県の能登半島地震で被災した奥能登でフィールドワークを行っています。

担当教員より

多発する災害、急速な少子高齢化・過疎化は、私たちの暮らしの継続を困難にします。本ゼミでは、これらの問題がもたらす影響を、社会学的な視点から「地域コミュニティ」という単位に注目して研究しています。現地調査は普段の生活を異なる角度から深く考える機会を与えてくれますが、同時に、統計データを活用してマクロな視点から対象地域全体を俯瞰した分析も行ってもらいます。身近な地域の問題を複眼的な視点をもって考えてもらえたらと思います。

菅 磨志保 准教授

自然

社会安全研究科
博士課程前期課程　2年次生
原 幸平さん
（福岡／上智福岡高校出身）
（社会安全学部卒業）

4年次生
田中 神優さん
（滋賀／県立国際情報高校出身）

最新の土木工学技術を駆使して、文化財を守るための最善策を考えます。

小山ゼミでは、地盤・岩盤を軸とした研究を行っています。その中で、テーマにしているのは文化財の保全・修復、維持管理です。現在、私たちは2024年に発生した能登半島地震で被害を受けた、石川県の金沢城や七尾城跡の石垣の崩れや地割れについて研究を進めています。今後も大規模な地震が発生した場合、同様の被害が発生する可能性が高いため、被害の要因を明らかにし、維持管理や対策の方法を考えなければなりません。そこで私たちは現地に行き、3次元レーザー計測を使用した石垣の3Dのデータを収集し、常時微動計測によって地盤の振動特性を把握し、保全・補修の方法の検討や効率的かつ効果的な維持管理の方法の提案を行っています。文化財を対象とする場合、土木工学だけでなく、考古学を専門とする方々とも意見を交わすため、常に新たな発見や視点があり、とても面白いです。金沢城や七尾城以外にも、2016年の熊本地震で倒壊した熊本城の石垣の保全・修復にも携わっており、危険な石垣を調査した上で、どの石垣から対策を行うかの優先順位付けを提案しています。文化財は、前世から受け継ぎ、そして、後世へ引き継ぐものなのです。その一端を担う研究に、非常にやりがいを感じています。

▲ 常時微動計測によって七尾城の地盤の振動特性を把握し、保全・補修の方法を検討しています。

担当教員より

本ゼミでは土砂災害をはじめとした地域の防災、道路やトンネルといったインフラの維持管理、石積や古墳などの文化財の維持管理をテーマに研究を進めています。数値解析、現場計測といった工学的アプローチに加えて、計測結果などをいかに分かりやすく伝え、活用していくかという社会科学的側面も考慮した文理融合の学びが特徴です。

小山 倫史 教授

課外活動

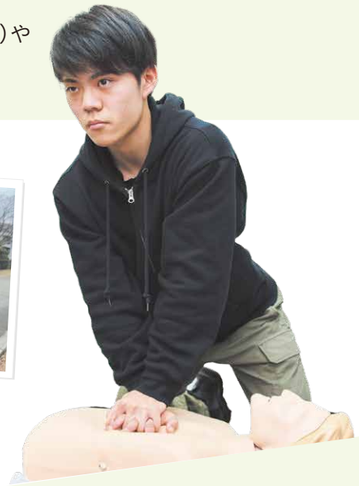
高槻ミューズキャンパスを拠点とした公認団体は、7団体あります。
その他にも、千里山キャンパスを中心に活動するクラブ（体育会・文化会等）やサークルに参加することができます。

社会安全隊

応急手当の知識と技術を身に付け、ボランティア活動に生かしています。

日頃は心臓マッサージ、AEDの正しい使用方法などの訓練を行い、資格を身に付け、地域イベントなどでボランティア活動を行っています。先日は高槻市シティハーフマラソンにAEDランナーとして参加。緊急処置を行うことはなかったものの、両脚がつってしまった方に応急処置を行いました。処置の知識と技術を身に付けたことで、状況に応じて対応できるようになりました。

▲ 訓練で得た知識と技術をボランティア活動で発揮しています。



▲ 高槻市内の小学校で防災教育を行ったときの写真です。小学生も参加しやすいように内容を構成しています。

KUMC

出張授業や防災イベントを通して学部での学びを地域に発信しています。

東日本大震災で教育支援したのをきっかけに発足した社会安全学部の学生団体です。大阪府内の小学校で「防災出前授業」を定期的に開催するほか、地域・学内で行われる防災関連イベントにも参加。地域イベントでは「防災啓発ブース」の出展や、ゲームやクイズ、体験を織り交ぜた防災教育などに力を入れています。千里山キャンパスの学生も合わせると約700名で組織しており、多くの学生とのつながりができる点も当団体の特徴です。社会安全学部で学んだことをアウトプットすることができ、自分の成長につながります。

KANDAI DPE※

※DPE…Disaster Prevention Education（防災教育）

子どもたちに楽しみながら防災意識を高めてもらうことが目標です。

ドローンやVRなどのICT機器を使って、子どもたちに防災の重要性を伝える活動団体です。例えばドローンは被災区域の状況確認や、救援物資の運搬で活躍しますし、VRは災害時のリアルな疑似体験を可能にしてくれます。まずは子どもたちに楽しいと思ってもらい、防災に対する関心を高めることによって、家庭や地域の防災力を上げていくことが目標。小・中学校での防災教育に力を入れたいと思っています。

▲ 防災とイベントを組み合わせて、防災に興味をもってもらえるようなイベントを行っています。ドローンを用いて被災者(マネキン)を探す体験をしてもらいました。

つなたかLab.

津波・高潮ステーションを拠点に防災教育や関連イベントを開催しています。

津波や高潮の発生時に水門を制御する「津波・高潮ステーション」を拠点として、防災教育や防災関連のイベントを開催しています。主に小中学生を対象に「防災クイズ」をはじめとする防災教育活動を行うほか、年に1度だけ淀川大橋で行われる「防潮鉄扉閉鎖訓練」の見学会も開催しています。こうした活動を通して防災に関心をもつ人を増やし、災害に対する危機意識を高めてもらいたいと思っています。

▲ ミューズキャンパス祭で防災クイズを行いました。

大学院

学部を卒業したら、企業や組織に就職しないといけないと思っている人、そんなことはありません。
社会はより高度な知的生産力が求められる時代になりつつあります。今日の社会は多くの仕事がＡＩに置き換えられていく中で、答えを求める力ではなく、問いを立てる力こそが求められる時代です。
大学院における研究活動は、そうした問いを立てる力を効果的に身に付けることができます。

大学院は、特別な人がいく場所なのでは？

『いいえ。大学院は研究活動を通じてより高度な知的生産技術を学ぶ場所です。』

Q 社会安全研究科の大学院は、文系なの？理系なの？

A 学部同様ですが、文系・理系というくくりでは捉えられない学問領域です。言い方としては学際的な分野となりますが、それは文系にも理系にも当てはまるということです。社会の安全に関する諸事象は、複数のアプローチ（系）から物事を捉えることになり、そのため双方の視点を学ぶことになります。そうすることで、これまでにない「知」に触れることができる研究分野です。

Q 大学院にいったら、企業や組織で就職が遅れて不利になるのでは？

A 大学院卒を積極的に採用する職種や業界は、学部卒に比べて多くはありませんが、その多くは高度な知的生産を必要とする職種で、一般的に給与水準も上がる傾向があります。令和6年賃金構造基本統計調査によれば、大学卒の月給は全年齢平均で38万5800円であるのに対して、大学院卒は49万7000円となっています。就職が数年遅くなったとしても、生涯賃金の面では十分アドバンテージがあります。

社会安全研究科

博士課程前期課程・後期課程（防災・減災専攻）

関西大学大学院社会安全研究科は、「安全の学知」の集積・体系化に取り組むとともに、防災・減災政策の立案と実践、危機発生時の社会的合意形成の技術開発、防災・減災のための制度設計などを担いうる高度な知識とシミュレーション能力を有する先端的研究者ならびに専門職業人を育成することをめざしています。社会安全研究科は、法学・政治学、経済学・経営学、社会学、心理学、理学、情報学、工学、社会医学などの従来の個別的な学問体系では対応しきれない問題に正面から取り組む新しい大学院研究科です。学際的、複眼的なアプローチを通じて、「安全・安心な社会」を実現することを第一義的に捉え、高度な研究教育を推進します。

PDM（Ph.D.of Disaster Management Program）※英語のみの博士課程後期課程

Ph.D. course in Disaster Management (PDM) will prepare you with a high level of analytical skills and knowledge to make a difference in the fields of disaster management, including disaster mitigation, preparedness, response, and recovery. The curriculum combines interdisciplinary training in engineering, economics, psychology, and management in order to produce leaders with innovative ideas for disaster reduction in both practice and the academic field.

大学院で研究活動を

社会安全研究科
博士課程前期課程
2025年3月修了
山﨑 健司さん
（高知／土佐塾高校出身）
（社会安全学部卒業）

学術的な探究とともに、実社会への応用を意識して研究を進めました。

学部時代から取り組んできた「災害関連死」の研究を、さらに発展させたいという思いから大学院に進みました。災害時に持病がある方々は適切に対応を取れるのかと思い、「災害関連死と持病の関係」をテーマとして、熊本地震や東日本大震災における関連死の実態把握を進めています。研究論文が学術的に認められたことで、自信につながりました。また、働きながら大学院に通う経験を通して、研究が実社会でどのように役立つか考える視点が身に付きました。

▲自身の研究をゼミの学部生に発表し、積極的に意見交換を重ねました。

就職・進路

「安全・安心な社会」への関心が高まる中で、社会安全問題を専門とする人材は、公共部門、民間部門を問わず、幅広く必要とされています。社会安全学部では、学生一人ひとりのキャリア形成を支えています。

キャリア支援

キャリアセンター

自らの進路を主体的に定めるキャリアデザインに必要な力を育む環境があります。

キャリアセンター高槻ミューズキャンパス分室では主に社会安全学部生を対象とした就職・キャリア形成支援に関するガイダンスや各種セミナーを実施。また、キャリアセンタースタッフや就職専門相談員が、将来の進路への不安や就職活動の進め方など、あらゆる学生の相談に親身に対応しています。就職活動が始まる以前の1・2年次生から参加できるキャリアデザイン関連の行事も展開することで、未来を見据え、主体的に自らの進路を捉えて行動が起こせる環境を整えています。

キャリア教育

キャリアデザインを考える

- **キャリアセンター主催のセミナーの受講**
- **各種インターンシップへの参加**
- **「キャリア形成科目群」の受講**

▶

基礎能力の向上

全員を少人数制クラスに配属。専任教員が各クラスの指導担当となり、社会人として必要なスキル（情報を収集する、読解する、書く、発表する、議論する）の訓練を行う。

▶**「入門演習」（1年次）**　▶**「基礎演習」（2年次）**

多彩に広がる将来の活躍フィールド

企業　業種・業態を問わず、あらゆる分野で社会安全問題のスペシャリストが求められています。

国・自治体等　公務員やNPO、さらに災害関連の国際機関職員として、世界を舞台に活躍するチャンスが広がっています。

研究　大学院への進学や研究機関などへの就職により、安全・安心の仕組みづくりが期待されています。

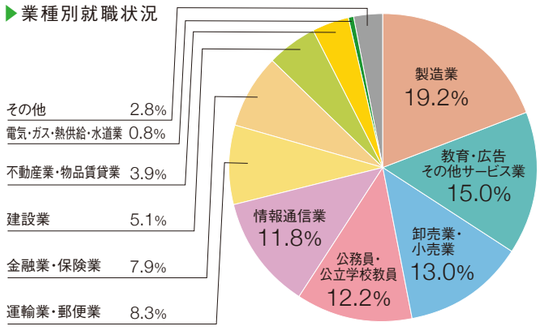
取得できる資格　中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）、社会安全士、社会調査士、司書教諭、司書、学芸員、社会教育主事

就職実績

社会安全学部第12期生の就職率は、99.2%（男子98.9%、女子100%）と、引き続き高水準を維持し、13学部中、上位の就職率となっています。また、公務員・公立学校教員の占める割合も12.2%と高い水準を保っています。安全・安心に対する社会の高いニーズに応えた結果といえます。

就職率 99.2%　男子学生 98.9%　女子学生 100%

▶業種別就職状況



就職・進学先の一例 <2025年3月卒業生実績>

製造業	アイリスオーヤマ、オカムラ、オリンパスマーケティング、カナデビア、関西ペイント、北川鉄工所、近畿車輛、第一工業製薬、ダイキン工業、タダノ、テルモ、東京製綱、酉島製作所、ニチバン、日産自動車、ニプロ、能美防災、ホーチキ、三菱ロジスネクスト、ミラタップ、村田製作所、Meiji Seika ファルマ、モリタホールディングス、理研計器、ロート製薬　など
教育・広告・その他サービス業	イオンディライト、甲子園学院中学校・高等学校、サイネックス、静岡県立病院機構、須磨学園、セコム、帝国ホテル、東洋テック、西日本高速道路（NEXCO西日本）、日本赤十字社大阪府支部　など
卸売業・小売業	因幡電機産業、キヤノンシステムアンドサポート、コーナン商事、日本ハムマーケティング、ニトリ、日本紙パルプ商事、ファーストリテイリンググループ、富士興産、三菱食品、メディセオ、モリタ、ユアサ商事　など
公務員・公立学校教員	国家公務員一般職、国税専門官、防衛省自衛隊 幹部候補生、大阪府職員、広島県職員、徳島県職員、香川県職員、大阪市職員、八幡市職員、高槻市職員、高砂市職員、米子市職員、愛媛県教員、警視庁、大阪府警察官、東京消防庁、京都市消防吏員、大阪市消防吏員、堺市消防吏員、高槻市消防吏員、豊中市消防吏員、守口門真消防吏員、尼崎市消防吏員、田辺市消防吏員　など
情報通信業	アドソル日進、ARアドバンストテクノロジ、NECネッツエスアイ、オービックビジネスコンサルタント、京セラコミュニケーションシステム、ゼンリン、デジタルアーツ、日本総合研究所、富士ソフト、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン、リクルート　など
運輸業・郵便業	大阪市高速電気軌道、上組、近鉄グループホールディングス、鴻池運輸、山九、西濃運輸、全日本空輸（ANA）、東海旅客鉄道（JR東海）、南海電気鉄道、西日本旅客鉄道（JR西日本）、日本郵便、日本航空（JAL）、東日本旅客鉄道（JR東日本）　など
金融業・保険業	あいおいニッセイ同和損害保険、あいち銀行、朝日生命保険、伊予銀行、関西みらい銀行、かんぽ生命保険、静岡銀行、商工組合中央金庫、損害保険ジャパン、日本生命保険、野村證券、三井住友海上火災保険　など
建設業	関電工、熊谷組、大末建設、大和ハウス工業、日本ドライケミカル、長谷工コーポレーション、綿半ソリューションズ　など
不動産業・物品賃貸業	エスリード、NTT・TCリース　など
電気・ガス・熱供給・水道業	北陸電力　など
その他	住宅金融支援機構、日本年金機構、日本自動車連盟　など

卒業生インタビュー

新たな業務ごとに学びながら、渋滞や事故に対する計画策定を行っています。

いであ株式会社に勤務

建設コンサルタントとして、インフラ整備の調査・設計・施工管理・維持管理の一連の流れを担当しています。私が所属している部署は交通に関する計画を行うことが多く、渋滞対策や事故対策などを担うこともあります。現在、主担当として行っているのはバリアフリーに関する業務で、障害者団体の方々や外国の方々にワークショップやヒアリングを行いながら基本計画を作成しています。担当する業務ごとに勉強を重ね、創意工夫をしながら進めていくので、知識とできることが増えていく感覚が得られ、自身の成長を感じられるところが魅力でありやりがいです。今後もどんな分野でも勉強して、広い視野をもって取り組むという姿勢でがんばり続けたいと思っています。

現在の仕事に役立っていること　**防災を多面的に考え、実践した経験が今につながっています。**

在学中に得た「1つのことを他分野・多角度から検討する」姿勢が、特に役に立っていると感じます。1つのゴールに向かってさまざまな立場の人たちの声を聞き、より良い答えを導き出さなければならない中において、複数の視点から課題を検討することで合意形成を図り、調整するための力が身に付いたと感じます。

梶谷 裟和さん
社会安全学部 2019年3月卒業
社会安全研究科 博士課程前期課程 2021年3月修了

日本のものづくりを物流で支えたいという思いを胸に、さまざまな業務に携わっています。

日産自動車株式会社に勤務

現在は九州工場の製造部物流課に所属し、製造現場へのサポート・新車関係・自働化改善などに携わっています。品質の良い車を納期通りにお客さまのもとへ届けるために、自然環境や社内外で発生する多種多様な出来事に悪戦苦闘しながらもがんばっています。街中で自分が携わっている車を見る時が、最もやりがいを感じる瞬間です。私は学部で力を入れて学んだことを生かしたいという思いから、物流業界に進む将来をイメージしていました。しかし、ゼミの先輩からメーカーの物流部門という存在を教わったことで、自分の視野が広がり、日本が世界に誇るものづくりを、物流という土台から支える仕事がしたいと考え、現在の仕事に至りました。

現在の仕事に役立っていること　**多角的な視点から問題を捉える姿勢が今役立っています。**

1つの物事を多くの視点から考える習慣が非常に役立っています。多くの関係者と問題解決に取り組む際には、それぞれの立場にとってのリスクや、メリット／デメリットを検討する必要があります。学部で学んだ「同じ問題でも立場が違えば影響も違う」という考え方が、今につながっていると感じています。

堀 創祐 さん
社会安全学部 2023年3月卒業

公務員として福祉行政に携わる上で、文理融合の幅広い学びが生かされています。

大阪府庁に勤務

大学で学んだ防災・減災の知識を生かし、災害への危機管理を高めてより多くの命を救いたいと思い、大阪府庁を志望しました。現在は生活保護を担当し、府内の市町村や指定介護機関への指導や監査を実施して、生活保護法や介護保険法に基づく行政が適切になされているかの確認を行っています。国と市町村との橋渡し役を担い、府全体が適切な行政を行えるよう正確・丁寧な業務に努めています。将来的には、在学中の防災・減災に関する学びを生かすとともに、より専門的な知識を身に付け、災害対策を行う危機管理の業務に携わることが目標です。自然災害による被害を最小限にできるよう対策して、大阪をより災害に強い街にしたいと考えています。

現在の仕事に役立っていること　**文理融合の幅広い学びが、公務員としての業務に役立っています。**

文理融合の幅広い知識を身に付けられることが、公務員として働く上でアドバンテージであると感じます。公務員に必要な法律の知識も学んだことで、適切な業務遂行につながっています。リスクマネジメントに関する知識のほか、心理学やメンタルヘルス学も生活保護受給者に寄り添う福祉行政に役立っています。

宮内 瑞樹 さん
社会安全学部 2020年3月卒業

キャンパス紹介

社会安全学部がある高槻ミューズキャンパスの特徴的な施設・設備を紹介します。

ミューズキャンパスはJR高槻駅から徒歩約7分、阪急高槻市駅からも徒歩約10分の交通至便な立地。また、大阪の都心や京都に30分程度で行くことができ、大学生活のさまざまな場面で便利なキャンパスです。

1 東館
（初等部・中等部・高等部校舎棟）

2 西館（大学・大学院学舎棟）
- ミューズ大学図書館
- 関西大学児童図書館
- 安全ミュージアム
- エクステンション・リードセンター
- キャリアセンター
- 生涯学習センター
- ミューズ保健センター
- ミューズホール

3 北館
- レストラン“ミューズ”
- 災害用備蓄倉庫　ほか

特徴的な施設

安全ミュージアム

社会安全学部・社会安全研究科で取り扱う「防災・減災・危機管理」などの学問領域を題材にした資料を展示しています。また、生涯学習の地域拠点として、市民への開放もしています。

ゼミ研究室

3年次からは、すべてのゼミに学生専用のゼミ研究室があるという恵まれた環境のもと、ゼミ生同士で活発な議論をしながら研究を進めていきます。

災害用備蓄倉庫

防災拠点として、災害時に必要な食料や生活用品のほか、発電機や非常用ライトなども保管しています。また、プールの水を浄化して、生活用水を確保するシステムなども備えています。

Global Smart Classroom

各キャンパスをオンラインで結び、対面×オンラインでの授業を可能にします。対話しやすい独自の遠隔会議システムにより臨場感を確保し、遠隔でも能動的に参加できる授業を実現しています。

アクティブ・ラーニング教室

グループワークなど、実践的な授業の受講に適した教室です。電子黒板やプロジェクターが豊富に設置されています。

レストラン“ミューズ”

中学生から大学院生まで、さらには一般の方も利用できる地域開放型レストラン。リーズナブルで豊富なメニューは大好評で、オープンカフェコーナーなどくつろぎのスペースも備えています。

ミューズ大学図書館

手が届きやすいように低い書架が並び、圧迫感無くすっきりした空間には、約5万冊の充実した図書がそろっています。希望の図書がなければ、他キャンパスの図書館から取り寄せることも可能です。

ミューズホール

4階と5階にまたがって広がる、500人を収容可能なミューズキャンパスで一番大きな教室です。大スクリーンや最新AV機器の設置だけでなく、カラフルな色調で明るい雰囲気を作り上げるなど、デザイン面でもこだわりがあります。

ミューズキャンパスの地域交流イベント

多彩なメニューの公開講座

近隣住民の方々との炊き出し

キャンパスを体験しよう!

▶オープンキャンパス2025 @高槻ミューズキャンパス

6/22（日）・8/23（土）
（午前中のみ）

詳しくはコチラから ▶▶▶▶

教員・研究紹介

社会安全学部の教員とその研究を紹介します。

社 会

亀井 克之 教授
専門分野
■リスクマネジメントとその事例

桑名 謹三 教授
専門分野
■事故と損害保険

高鳥毛 敏雄 教授
専門分野
■公衆衛生学、食の安全学、感染症制御学

髙野 一彦 教授
専門分野
■コンプライアンスとCSR・情報法

永田 尚三 教授
専門分野
■消防行政

永松 伸吾 教授
専門分野
■災害の経済分析と減災政策

山崎 栄一 教授
専門分野
■地方自治体と災害対応

吉田 裕 教授
専門分野
■交通システム安全論、事故分析

河野 和宏 准教授
専門分野
■情報セキュリティ

中間 千香子 准教授
専門分野
■公衆衛生学、老年医学、生活習慣病、感染症

人 間

近藤 誠司 教授
専門分野
■災害とメディア

土田 昭司 教授
専門分野
■安全の社会心理学

中村 隆宏 教授
専門分野
■事故・災害とヒューマンエラー

廣川 空美 教授
専門分野
■職場のメンタルヘルス、社会疫学、健康心理学

元吉 忠寛 教授
専門分野
■災害の心理学

岡本 満喜子 准教授
専門分野
■消費者安全と事故調査制度

城下 英行 准教授
専門分野
■防災教育・安全教育

菅 磨志保 准教授
専門分野
■支援と復興の社会学

菅原 慎悦 准教授
専門分野
■リスクをめぐるガバナンス

自 然

一井 康二 教授
専門分野
■性能評価に基づく耐震設計

伊藤 大輔 教授
専門分野
■自動車衝突安全・衝撃生体力学・事故分析

奥村 与志弘 教授
専門分野
■総合防災・減災学

川口 寿裕 教授
専門分野
■事故のシミュレーション

越山 健治 教授
専門分野
■未来都市に潜む災害危険性

小山 倫史 教授
専門分野
■地盤災害

高橋 智幸 教授
専門分野
■水災害の防災・減災技術

林 能成 教授
専門分野
■地震学、地震災害

細川 茂雄 教授
専門分野
■熱・流れと安全

福井 敬祐 准教授
専門分野
■統計科学

大野 哲之 助教
専門分野
■水文気象学

特別任命教授

※授業は開講しておりません。

社会安全研究センター長
河田 惠昭
専門分野
■防災・減災学の構築

東日本大震災の被害の10倍以上となる南海トラフ巨大地震や首都直下地震などが起これば、わが国はつぶれてしまいます。そのような最悪の被災シナリオにならないように減災対策を提案します。